

夏場の入浴介助

暑さ対策で 職員の負担軽減を

特別
企画

介護職の身体的な負担を 軽減する「フェイスカバー」

利用者にとって入浴は、身体を清潔にするとともに、リラクゼーション効果が得られる貴重な機会です。しかし、その一方で介護職にとって入浴介助は、身体的な負担が大きく、体力を消耗します。

特に夏場は、エアコンのない暑い環境で大量に汗をかくため、暑さ対策が必要となります。しかも、最近はコロナ禍でマスクを装着して介助を行っている状況にあり、身体への負担はより大きいといえます。

「フェイスカバー」は、そうした介護職の過酷な状況を軽減させるために、興和株式会社が開発・販売した商品です。装着した部分がひんやりと冷たく、爽快感をもたらす効果があります。

特徴①

つけるつ
顔全体が冷たく、
ひんやりとして心地よい



販売価格：1枚3,300円（税込） カラー：グレー、ピンク
※1回のお買い物で10個以上ご購入いただくと、20%OFF

特徴②

簡単な手入れで、
繰り返し使用が可能

特徴③

フィット感、肌触りがよく、
長時間装着しても違和感がない

特徴④

生地特殊な冷却加工。
吸熱効果と気化熱作用で
水、汗、風を利用し、何度もクールダウン

マスクをつけた状態での入浴介助は、介護職にとって負担が大きく、特に気温が高い時期には、暑さ対策が欠かせません。興和株式会社は涼しい呼吸でひんやり冷たい「フェイスカバー」を発売しました。

使い方と主な特徴

「フェイスカバー」はその名の通り、顔に巻き付けるように装着します。使い方は次のとおり、いたって簡単です。

フェイスカバーの使い方

- ① 水道水などで濡らす
- ② 絞る
- ③ 5〜10秒振る
- ④ 顔に装着する（耳を通して、後頭部で縛る）

特殊な冷却プリントによって、水分と風で冷却されるため、鼻や口から首まわりまで、広範囲にわたって冷たさを感じることができます。

これは、さまざまな試験で実際に結果が示されています。たとえば、使用開始時と30分後のサーモグラフィーを見ると、フェイスカバーの生地の温度はほぼ変わっていないことがわかります（図）。また、同じ条件で6回、温度測定試験を行ったところ、いずれも生地の温度が安定して低下する様子がみられました（表）。

実際に現場でフェイスカバーを試してみたところ、使用した職員のほとんどが効果を実感しています（下部参照）。猛暑を乗り切るために、「フェイスカバー」は大きな助けとなりそうです。

現場の声

特別養護老人ホーム 癒しの里 青戸
（東京都葛飾区）

「フェイスカバー」の効果を実感

多くの現場と同じように、癒しの里青戸においても、入浴介助では職員に大きな負担がかかっており、夏場のマスクを装着した状態での介助は、過酷な暑さが心配だと、施設長の柳沼亮一さんは言います。

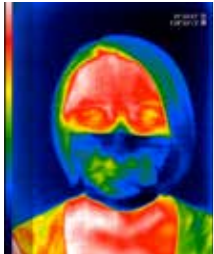
そんななか、数名の職員にフェイスカバーを装着してもらいました。使用した感想として、次のような声が聞かれました。

顔のまわりから首の後ろまでひんやりとして気持ちよかったです。素材も肌触りがとてもよいですね。（伊東来夢さん）

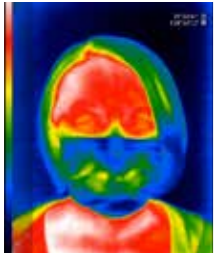
マスクをつけていると、顎の下に汗がたまってしまうのですが、フェイスカバーはそれがなくて快適でした。それから、装着しても眼鏡がくもらないのもよかったです。（村田ゆきみさん）

装着することで疲労感がかなり減り、だいぶ楽になりました。利用者さんからも「涼しそうね」と好評です。（亀田由美香さん）

図 サーモグラフィーによる測定
開始時

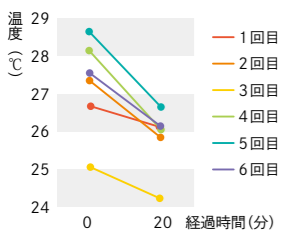


30分後



デキサホールディングス作成

表 温度測定試験の結果



試料を水（約30℃）に1分間浸漬させた後、軽く絞り10回振る。試料を4つ折りにした状態で温度センサーを生地の裏面と接触させ、約27～30℃付近の環境（外気）にて経過時間毎に温度を測定する。
試験機関：一般財団法人ボーケン品質評価機構 大阪生活用品試験センター



使用時の様子

施設長の
柳沼亮一さん



左から村田ゆきみさん、
伊東来夢さん、亀田由美香さん

